

鹿肉を犬用ジャーキーに

脱サラ移住した鹿ハンター

飯能市「命をいただく」伝える
遠藤拓耶さん



加工・販売している犬用ジャーキーを手に遠藤さん

【埼玉】飯能市でカフェを営む遠藤拓耶さん（39）は、他県から移住後、脱サラした鹿ハンターだ。

移住支援制度を活用して、自然豊かな同市に移った遠藤さん。地域の行事に積極的に参加し、温かく受け入れてもらった。「獣害に困っている」という農家たちの声を聞き、遠藤さんはワナ猟の資格を取得して獣害対策の活動を始めた。捕獲された鹿の多くが廃棄され

る現実も知り、命を生かすため、自ら駆除した鹿を加工・販売するプロジェクトを立ち上げた。

取り組みの一つが、犬用ジャーキーへの加工・販売だ。保存料不使用が好評で即完売となる。当初は夫婦で作っていたが、現在は地域の就労支援施設に委託し、福祉にも貢献する。

2023年にはジビエ加工所を開設。まだ供給量は少ないが、随所に独自の手法を取り入れ、品質にこだわる。遠藤さんは「おいしいジビエ料理を提供することで興味を持ってほしい」と話す。小学校でも講師を務め

る遠藤さん。枝肉の解体を実演し、子どもに「命をいただく」意味を伝える。「将来の世代が、共存を考えるきっかけにな

れば」と希望を持つ。地域への恩返しと、野生動物の命をつなぐことをめざして、遠藤さんは奔走する。